

活動名 「イベントマネジメント」と「スマホアプリの活用」を通じた武蔵地区商店街のまちづくり支援

団体名 経済学部経営学科 岡ゼミナール

代表者名 岡 達哉

はじめに（背景・目的・目標）

金沢星稷大学（以下「本学」）と金沢中心商店街武蔵活性化協議会（以下「武蔵活性化協議会」）は2017年1月、武蔵地区商店街のさらなる活性化及びまちづくりの推進と、連携を通じた本学学生・教員の教育研究活動の発展を目的として連携協定を締結した。

2018年2月に開催された武蔵活性化協議会第4回事業戦略部会に本学教員が出席し、2018年度以降、武蔵活性化協議会と本学で進める地域連携活動については経済学部経営学科教授岡達哉が本学の窓口を務める旨、出席者の全員一致で了承された。

また、2018年3月に開催された武蔵活性化協議会第7回販売促進企画部会では、「金沢星稷大学との連携事業（星大連携事業）」については、あまり細かな制約を設けず、武蔵活性化協議会と岡教授の間で協議し、地域商店街の若手との交流を進め、学生の立ち位置も明確化する」こととされた。

このような組織的意思決定の後、武蔵活性化協議会事務局長等からの要望を受けて、2018年度の地域連携については、経済学部経営学科「岡ゼミナール」（以下「岡ゼミ」）に所属する学生を中心に、以下の3つの活動を推進することとなった。

- (1) 学生による地域調査
- (2) 学生と武蔵地区商店街関係者との意見交換会（以下「意見交換会」）の開催
- (3) 「むさしハロウィン」の企画・実施

活動内容

1. 当初予定の活動

(1) 学生による地域調査

①第一次調査（武蔵活性化協議会との連携）

日時：2018年5月17日（木）16:30～18:00

場所：金沢名鉄丸越百貨店（エムザ）会議室→横安江町商店街→近江町市場方面

活動主体：岡ゼミ3年生15名

内容：金沢スカイビル管理組合・金沢中心商店街武蔵活性化協議会・武蔵ヶ辻周辺まちづくり協議会事務局長・エムザ顧問 長田憲道氏より、武蔵地区商店街の歴史等に関する概要説明を受けた後、現地視察

本調査活動は、「意見交換会」（(2)参照）に先立つオリエンテーリングとして、学生が武蔵地区のさらなる活性化及びまちづくりの推進に向け、地域資源の発見と改善策の提案につなげることを目的に行われた。しかしながら当日は悪天候のため現地視察の時間が十分に確保できなかったことから、学生側の強い希望により、学生が独自の追加調査（②参照）を実施することとなった。

②第二次調査（学生による独自活動）

日時：2018年6月21日（木）16:30～18:00

場所：金沢名鉄丸越百貨店（エムザ）・横安江町商店街・近江町市場・スタジオ通り

活動主体：岡ゼミ3年生15名

「意見交換会」（(2)参照）において、上記4地域それぞれに関する調査結果をまとめて発表することを目指し、それぞれの地域でグループ別に調査を実施した。



(写真1: 第二次調査の状況（於：エムザ）)

(2) 学生と武蔵地区商店街関係者との意見交換会

2018年6月28日(木)夜、「武蔵地区の今後のまちづくり」をテーマとする意見交換会が開催された。武蔵地区商店街関係者約30名のほか、本学から岡ゼミの3年生15名と4年生1名が参加した。金沢名鉄丸越百貨店(エムザ)・横安江町商店街・近江町市場・スタジオ通りの4地域における第一次・第二次調査結果について学生が発表し、自由討論を行った。

(3) 「むさしハロウィン」の企画・実施

2018年10月27日(土)、「金沢ハロウィン」の一環で、武蔵地区においても金沢星稜大学との連携により「むさしハロウィン」を開催することとなった。これに伴い、岡ゼミ内に3,4年生の合同組織として「武蔵活性化協議会☆金沢星稜大学岡ゼミ むさしハロウィン学生企画委員会」が発足し、イベントマネジメント、ホスピタリティマネジメントなど授業やゼミで学んだ知識を活かしつつ企画の検討を進めた。金沢ハロウィン実行委員会事務局とも協議を重ねた結果、「ダンスユニット」「企画ユニット」「カフェユニット」の3グループにより構成することとなった。またイベントに先立ち、学生がメディアに露出して同イベントのPR活動を実施した。



(写真2: 事前広報の状況(於: 石川テレビ))

イベント当日は小雨の交じる天候であったが、色とりどりのコスチュームに身を包んだ親子連れを中心に多数の来訪者があり、「金沢の台所」と呼ばれる近江町・武蔵エリアにふさわしい「収穫祭」としての様相を呈していた。



(写真3: むさしハロウィン当日の状況)

2. スピンオフ企画

武蔵活性化協議会と本学による連携協定の一環として行われた上記の諸活動に端を発して、武蔵活性化協議会が進める各種事業・活動に参画する(株)アドマックより、スマホアプリ「かなざわ学さぼ」(<https://www.kanazawa-air.com/portal/?p=611>)の利用促進方策の検討について岡ゼミの学生が要請を受けることとなった。同アプリの課題抽出やコンテンツの充実を図ることを目的として、武蔵地区をはじめとする市内各地の実店舗を学生が訪問し、アプリへの登録、利用メリットの検討等について交渉、協議を進めた。この結果、市内複数の店舗において、飲食等サービスを利用した際に同アプリの画面を提示することで割引、デザート等の特典が受けられるという成果が得られた。

成果と今後の課題

本学と武蔵活性化協議会の連携協定に基づく活動は緒に就いたばかりである。「まちづくり」という長期的課題に対してイベントが果たす役割にも限界がある。しかしながら本年度、学生が積極的に地域調査を進め、提言をまとめて発表し、集客のためのイベントの企画・実施や店舗との交渉等の諸活動に参加したことで、本学学生のやる気や資質をアピールし、本学と地域の信頼関係をさらに深める役割を果たしたことは疑いようがない。一方で学生の世代交代は不可避であり、活動が所与の成果を挙げるためには、関係者間の一層の意思疎通の強化と、形に残る活動の積み重ねが鍵といえる。